



喜界島ジオパーク(構想)
Kikaijima Geopark (Plan)

月刊喜界島ジオパーク 令和7年3月号

他地域のジオパーク見学と日本ジオパーク申請に向けて

喜界島ジオパーク推進協議会事務局

土屋純子

他地域のジオパーク見学に 行ってきました!

桜島・錦江湾ジオパークと、北海道の三笠ジオパークを訪問してきました。まず、桜島・錦江湾ジオパーク。活火山・桜島と市街地が近接するダイナミックな景観は、初めて訪れた際に大きな衝撃を受けたことを思い出します。「こんなに町と火山が近いの!」「桜島から煙が出るよ?」と驚かされました。今回の訪問では、事務局の方々の意見交換の場を設けていただき、ジオパーク運営の实情や課題について深く学ぶことができました。さらに、鹿児島市内だけでなく、錦江湾を挟んだ垂水側にも足を運び、異なる視点からジオパークの魅力を探ることができました。

一方、北海道の三笠ジオパークは、また異なる特徴を持っています。札幌市内から車で30分の三笠は、かつて炭鉱の町として栄えた歴史があり、地質資源と産業の関わりが色濃く反映されています。寒冷地ならではの自然環境

の成り立ちや、独自の資源を生かしたジオツーリズムの取り組みについて、事務局の案内のもと学びました。喜界島とは環境も地質的な成り立ちも異なりますが、三笠ジオパークは、三笠市のみで運営しており、喜界町と共通する課題も多く、運営の工夫や地域との連携方法について多くのヒントを得ることができました。



このように、他地域のジオパークを訪れることは、今後の発展につながる貴重な機会となります。今後もネットワーク活動を通じてさまざまなジオパークと連携し、学びの機会を大切にしながら、喜界島ジオパーク(構想)のさらなる魅力発信に努めていきます!

日本ジオパーク申請に向けて

4月に控えた日本ジオパーク申請の書類審査に向けて、事務局では現在準備に追われています。日々の業務や来年度の準備に加え、必要な書類の整理や申請書の精査、関係機関との調整など、やるべきことが山積みの状態です。そんな中、日本ジオパーク委員会の中田委員長と日本ジオパークネットワークの古澤事務局長が来島されました。この時期の島の天候は予測不能で、強風が吹くなか飛行機が無事到着し、ほっと一安心。しかし、風は冷たく、吹き飛ばされそうな勢いでした。

今回の視察の目的は、日本ジオパーク認定に向けた申請内容についてのアドバイスをいただくことです。喜界島サンゴ礁科学研究所、喜界島エコツアーガイド連絡協議会会長の外内さんと共に、島内の【サイト】を巡り、現在の取り組みや今後の課題について意見交換を行いました。また、「ジオパーク給食」の見学や、サンゴ留学生との懇談も行い、「ジオパークって知



る?」「普段どんなSNS使ってる?」「将来はどうするの?」など、活発な意見が飛び交いました。実際に喜界島で私たちがどんな活動をしているかを見てもらい、ディスプレイをしてみました。専門的な視点からの指摘を受けることで、新たな改善点も明確になり、申請に向けてさらに準備を加速させていきます!

未来に向けて

日本ジオパークへの認定はゴールではなく、新たなスタートです。一度の活動で終わりではなく、持続的な取り組みが必要です。まずは認定を目指す、世界地質遺産にも認定された地質学的にも珍しい喜界島で、今後も継続的に活動を続けていきます。そして、「住んで良かったと思える元気な島」にみんなです。続けたいと思っています。

